

## 中津干潟アカデミアとはなんぞ?

あっしーせんせがわかりやすく(?)解説するのだ

▼アカデミア(アカデメイア)とは、古代ギリシアのアテナイ(アテネ)北西部郊外にあった、英雄アカデモスの聖林(森)にちなんで神域であり、リュケイオン、キュノサルゲス等と並ぶ、代表的なギムナシオン(体育場)の所在地でもあった場所である。青年たちの教育に熱心だったソクラテスが、足繁くこのアカデメイアやリュケイオンのギムナシオンの青年たちを見て回っていたことが、プラトンの対話篇『リュシス』などにも描かれている。紀元前387年(コリント入戦争終了後)、プラトンがここに学園を開設したことから、この地名「アカデメイア」がそのまま学園名として継承されたとのこと。

……以上ググってみました。

▼いやいや何のことだかさっぱりわからない出だしのガタガタ通信なのであるが、なんでこんなことを急に話し出したかって? それは、3月4日に水辺に遊ぶ会が開催した「中津干潟アカデミア」について、ゆる〜く本質をわかっていただきたいなと思ったからなのである。

▼水辺に遊ぶ会がフィールドとしている中津干潟や山国川などの河川、そしてため池などの水辺環境には、少なくはない数の研究者や学生が日夜熱心に研究を行っているのだが、あまり地元の人には知られていないし、

研究者同士の交流もあまりない。研究者や学生たちの研究交流の場をもつけることで、より深い研究ができるというなあ、それに市民やこれから成長していく若い人たちにも広く知ってもらえるというなあ、ひよっとしたらその先には明るい中津の未来があるんじゃないか。

なんていう壮大なしゃべり思いつきを表現するのに、古代ギリシアの「アカデメイア」を引つ張り出させてもらったわけだが、果たして大丈夫か??

▼第1回目の研究発表会は、ハラハラしながらも無事終了。(中身はホームページで見てちょう)内容が少し難しいんじゃないかと、もっとじっくりやるべきだろうとか、市民にわかりやすい方法を考えないといかんだろうとか、時期が悪かったんじゃないかと、様々な意見や感想も寄せられたが、そうした声も踏まえながら、議論を重ね、次の展開へと向かっていけるといいなと思ったりするこの頃。会場にたくさんの方が足を運んで下さって、最後まで



で熱心に発表に耳を傾けていた様子を思い出すと、あのようなアカデメイアな場が、この地方都市にもあつていいんじゃないかな、なんて思っちゃったよ。

▼え? でもって次回はどうするか? 今のところまだ着地点はわからない。(おいおい無責任じゃ

ねーか! by隊長でも、地元の高校生や中学生が学術的なものに触れる場を提供し、若者が集える場を作りたいとは考えている。とりあえず、夏休みに実践の場を設ける予定らしい。今年はネクタイを締めて、営業活動に学校を訪問しようかなあ。

- 活動報告(2018.1.1~2017.12.31)
- 6~7 ガンカモ調査
  - 15 日本文理大森里海連環学講師
  - 23 東九州短大幼児教育課講師
  - 25 ひがたかふえ
  - 27 中津婦人会と料理試作会
  - 29 中津市環境審議会出席
  - 2 中津市下水道審議会出席  
中津市歴史博物館活用推進委員会出席
  - 3~4 シギチドリ類調査
  - 7 大分県地域婦人団体連絡協議会にて発表
  - 17 千ものづくり教室主催
  - 22 五十石川流域連携会議出席
  - 25 三百間海岸ビーチクリーン主催
  - 26 水産庁漁場環境生物多様性実証調査事業評価委員会出席
  - 3 4 中津干潟アカデミア主催
  - 3 5 河川協力団体連絡会議参加
  - 3 12 シギチドリ類調査
  - 3 13 ロシア研究者来訪・ミニ学習会開催
  - 3 14 北部小5年生千もの教室指導
  - 3 17 TOTORIモデルフェア参加
  - 3 21 海苔教室主催(雨天海苔すき中止)
  - 3 22 県自然環境保全地域検討委員会出席  
ひがたかふえ
  - 4 11 県立工科大新入生ガイダンス講師  
県立工科大1・2年生ビーチクリーン
  - 4 14 シギチドリ類調査
  - 4 20 日本文理大にて研究の打合せ
  - 4 26 朝日放送番組収録協力
  - 4 28 山口市榎野川河口域干潟再生協議会にて発表・活動参加
  - 5 3 ベッコウトンボ観察会主催  
3~4 シギチドリ類調査
  - 5 8 今津小4年生ベッコウトンボ観察指導
  - 5 9 舞手川現地調査
  - 5 11 セブンイレブン環境基金報告会出席
  - 5 12 シギチドリ類調査
  - 5 15 県うつくし作戦県民会議出席  
大新田・松林草刈り作業
  - 5 17 沖代小4年生干潟学習講師  
ノースFMにてガタフェス告知
  - 5 20 大新田ビーチクリーン&松林再生
  - 5 21 NPO水辺に遊ぶ会会計監査
  - 5 22 苅田港美化協議会にて講演
  - 5 23 沖代小4年生干潟観察指導
  - 5 24 三保交流センター社会教育講座講師  
ひがたかふえ
  - 5 25 鶴居コミュニティ社会教育講座講師
  - 5 26 ガタフェス主催
  - 5 27 香々地青少年の家環境生物観察指導
  - 5 28 宇佐北部中1~3年環境学習講師  
山国川河川協力団体意見交換会出席
  - 5 29 豊田小3年生ベッコウトンボ学習指導
  - 5 31 うつくし作戦推進隊地域懇談会出席

H30年度の活動にご支援  
ありがとうございます。  
TOTO水環境基金様  
SAVE JAPAN PROJECT様

行事の詳細は  
順次お知らせします。

### 水辺に遊ぶ会今後の行事予定

※日程は変更になることもあります。詳細はお届けするチラシやホームページで確認してください。

山国川あさかな観察会●7月21日(土)13:30~16:00  
帝王紫ワークショップ●7月25日(水)9:30~14:00  
夏休みひがた観察会●7月28日(土)13:30~16:00  
アカテガニ産卵観察会●8月24日(金)19:30~21:00  
中津干潟アカデミアワークショップ●8月開催  
(魚の体のしくみを知る講座・干潟生物調査体験・ドローンを使った測量体験 ※対象:小5~大人)  
ひがたらぼ夏休みワークショップ●8月開催  
(カブトガニを粘土で作ろう・チリメンモンスターを探せ 鳥帽子折り紙・松ぼっくり工作など ※対象:小学生)

### ひがたかふえ 7月26日(木)18:00~20:00

参加費300円(軽食付) ひがたらぼ

●「環境や生きものの専門的な話が聞きたい」とか「子どもが大きくなってイベントには参加しにくいけど、おしゃべりはしたいのよねー」というお声にお応えして?サイエンストーク(30分程度)とおしゃべりの会をはじめました。

### 浜遠足のススメ 潮風に吹かれながら、松林で楽しく過ごしませんか?

●多くのボランティアさんのご尽力により、大新田の松林(セブンイレブンさん奥)が大変きれいになりました。熊手を持って松葉をかいたり、松林の中で宝探しをしたり、お弁当を食べたりするのも楽しいものです。昔はどこかの学校でも行っていた「浜遠足」を復活して下さる学校や団体さんを応援します。また、松林の再生活動のボランティアさんも併せて募集します。

### ひがたらぼに遊びに来てね

開館時間  
10時~16時  
土日祝日休館

夏休みの開館日は次回お知らせ(7月中旬発送)に掲載します  
電話:0979-77-4396  
(ひがたらぼ平日9:00-17:00)  
FAX:0979-77-4396  
info@mizubeniasobukai.org  
http://mizubeniasobukai.org/

ある日曜日、胸騒ぎがしてひがたらぼをのぞくと、床がびしょり。アオギス水槽の水が3分の一ほど減っていました。いったい何が?と調べると、数日前にアオギス水槽に入れた大きなアカニシが、給水ポンプの下に潜り込んでパイプを押し上げたことで、循環するはずの水が外に流れ出たようです。おかげで荷物を全部出しての大掃除。とほほな初夏の一日でした。(う)

# 干潟を楽しむお祭り ガタガタフェス 楽しかった?

▼どう考えても雨じゃない? という周囲の声に「だいたいよーぶ。晴れるから。なぜなら水辺に遊ぶ会だから」とよくわからない自信で返事をするアヤシイ干潟調査隊長の予想通り(これをミズベニアソブカイマジックと呼ぶらしい)、なんと雨が上がった5月の末の日曜日。去年に続き2回目のガタガタフェスが新田の松林で開かれた。ガタガタ読者の皆さんに当日の様子をちよいと紹介するよ。

▼最初のメニューは「松葉かき」。そう。松林の中で遊ぶ時にはまずは松葉をかきのだ。みんな手に手に「ガゴ」(熊手)を持って松林の地面をガシガシとかくと、砂地が現れる。こうやって地面をきれいしておく、マツは成長しやすいんだ。

▼昔行われていた元祖浜遠足では、松林の中に賞品の番号が書かれた紙が隠されていて、みんな夢中で探したという「宝探し」。去年も一番の人気コーナー。今回は金・銀・青・赤・黄の5色の松ぼっくりが松林に隠されていたけど、さてさて、金の松ぼっくりは見つかったかな?

▼宝探しが一段落して、お昼までの時間は、文理大学生チームの「松ぼっくり的当てゲーム」と「松ぼっくり工作」。学生君たち、センセイのお財布を考えると、賞品を大量に用意してきたみたいだけど、子どもたちもお兄さんお姉さんと一緒に遊んで大喜びだった。

▼ランチは村のぼん屋SUNのパンにもはや水辺に遊ぶ会名物となったボラフライ(ひだまりままとF美さんが作ってくれました)をばさんだ「フィッシュバーガー」と、中津のイカがたっぷり入った親父の会いさん渾身の「中津干潟焼きそば」。中津には美味しい海の幸がいっぱいあるのを知ってもらえたらいいなあ。

▼午後はメインイベントの「干潟観察会」。いつもは隊長がリーダーだけど、今回は水産大の学生さんがリーダーとなつて、グループごとに干潟で生きものの解説をしてくれた。(後ろで先生たちが心配そうに見守っていたのはナイショでことごとくこれまた、わかりやすかった、楽しかったと好評。また観察会に来てくれるといいなあ。

▼あ、忘れちゃいけない。飛び入りサプライズで漁師のK兄さんがピッチピチのカブトガニを連れて飛び入り参加。子どもたちはカブトガニに大騒ぎだった。

▼参加してくれた皆さん、楽しかったかなあ? また来年もできるといいなあ。来年もきつとやろうね。朝早くからお手伝いしてくれた学生さんと先生方、水辺サポーターの皆さん、ありがとうございました。



「大新田の浜と松林の物語」発行ご希望の方はご連絡ください。



## よい子の里海里浜 図鑑 マダラウミウシ

軟体動物門クログタナシウミウシ科 オレンジ色



●ウミウシって磯にいるものとはばかり思っていたら、そうじゃないところにもいるらしい...ということで探しに行きました。場所は中津港。岸壁から下をのぞき込むと、フシギな生きものの世界が広がっている。そして、いたいた! オレンジ色のひらひら君が。中津干潟初確認のマダラウミウシです。

●こう見えてもウミウシは巻貝の仲間。今回は見つからなかったけれども、干潟の泥やアマモの上にもいるらしいので、この夏探しに行かなきゃね。

●ひがたらばでウミウシ標本の展示もしています。

## もう見て見ぬフリは できないところまで 来てしまっている。 海のプラスチック 汚染どうする? どう行動する?

▼ある日突然、事務局のモトマロさんが「3人家族の我が家で、ひと月でどのくらいプラスチックごみが出るか調べてみる」と宣言した。結果がどうなったのかは、今後のガタガタ通信でレポートしてもらおうとして、本当に生活の中でプラスチックごみが多いなあと思うこの頃。スーパーでお魚買ってもお肉買っても発泡スチロールトレイに入っているし、野菜はビニール袋に入っている。

▼昔はどうだったんだろうと幼少の頃を思い出してみると、そういうええ買いたつて。お豆腐は鍋やボールに水と一緒にに入れてもらった記憶がある。お肉は木を薄く削ったやつ(経木っていうらしい)に包んで、同じような素材のヒモで結んでもらった。おにぎりは?

我が家は海苔をぐるりと巻いた真つ黒なおにぎりを、母が和紙ひょうとしたら障子紙で包んで持たせてくれた。遠足で包み紙を開いた時、海苔の良い匂いがふんと広がって幸せな気持ちになったなあ。あつしーせんせに聞いてみたところ、あつしーせんせんちはハラン(庭に生えている幅の広い葉っぱ)で包んでいたと言った。50年くらい前は、プラスチック製品ってほとんどなかったんだなあとしみじみ。

あ、憧れのソウが踏んでも壊れない鉛筆箱はプラスチックだったかも。

▼話は戻って、プラスチックごみ調査中のモトマロさんから、「JEAN(読者の皆さんなら知ってるよね)のKさんから教えてもらった。おもしろそうなので挑戦してみる。水辺に遊ぶ会でも紹介してね」とメールが来た。



2017年には100万人を超える人が運動に参加した  
Plastic Free July

▼オーストラリア発、毎年7月に開催されるムーブメント。使い捨てプラスチック製品をまるまる1ヶ月絶つ生活にチャレンジするのだそう。7年前に始まったこの運動は急速に世界中に広がっているらしい。

▼うーん。できるかな。買いたいものどうやってするか。コンビニには行けないな。でも、1週間ならできるかな。

### H29年度ビーチクリーン

参加者: 809人(4回計)  
回収ごみ: 1,310kg

ごみワースト3

1. 発泡スチロール破片
2. プラスチックボトル
3. プラスチックシート破片

### ホンの紹介



### ちゅうちゅうたこかいな

作・新井洋行 発行・講談社

●手あそび歌絵本。つぼの中から「ちゅうちゅうたこかいな」の歌にあわせてできた赤いタコ。

(注) なせタコは赤く描かれるのか? 衆目の知るところ赤いタコはゆでられて死んでしまった状態のものなのであるが...

しりとりになってるので「な」から始まるものが次々にたこつぼから出てきて、わくわくときどきのページめくりを楽しめます。

ちいさい人々には期待感いっぱいの絵本です。(も)